

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670600200		
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会		
事業所名	洛和グループホーム 出町柳		
所在地	京都府京都市左京区田中下柳町18-1 常林寺		
自己評価作成日	平成25年7月14日	評価結果市町村受理日	平成25年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JiyogyoCd=2670600200-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JiyogyoCd=2670600200-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成25年9月11日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関わりを大切に、近隣のお店での買い物や散歩時等、積極的に挨拶や会話を持つ様に心がけている。近隣の保育園との交流の夏祭りの参加や、近隣のボランティアの方の来訪も定期的に継続している。  
環境面は厳しい現状ではあるが、状態観察や職員同士細やかな声かけや見守り、付き添い、申し送り等により、転倒、骨折、離脱等事故ゼロ件を目標にしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、地域との関わりを深めていくことに重点を置き、「地域と共に、その人らしく、尊厳のある生活を送って頂く」と理念に掲げ、地域交流に職員全員で取り組み、利用者の以前の生活を知りその人らしく暮らせるよう職員間で話し合い支援しています。近隣の保育所との関わりが深く、夏祭りを協賛したり、保育園児が保護者とホームに訪問してもらう等の交流が図られています。また、利用者にとって日常生活の中で楽しみを持って暮らせるよう、食事作りを一緒にしたり、毎日散歩や近隣の商店へ買い物に出かけるなど、これまでの生活が継続できるように支援しています。利用者の状態が重度になった時には、医師と家族、職員で話し合い方針を共有し連携を図りながら、家族の希望と協力の下利用者が穏やかに過ごせるよう状態の変化に合わせた支援を行っています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の実践に向けて、目標、課題を設定しカンファレンス等で話し合っている。	地域との関わりを深めていくことに重点を置き、「地域と共に、その人らしく、尊厳のある生活を送って頂く」と理念に掲げています。地域交流に職員全員で取り組み、利用者の以前の生活を知りその人らしく暮らせるよう職員間で話し合い支援し、理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育所の夏祭りに参加したり、ボランティアの受け入れをしている。又買い物や散歩等近隣のお店を利用しており、散歩時も含め、積極的に挨拶や会話を持つ様心がけている。	近隣の保育所との関わりが深く、夏祭りを協賛し開催したり、保育園児が保護者とホームに訪問してもらう等、交流が図られています。日常的に近隣の商店に利用者と一緒に買い物に行ったり、散歩時に挨拶を交わしています。また、行事の際に近隣の教会から楽器演奏等のボランティアに来てもらい、楽しんでもらっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や問い合わせ等があった時に認知症について実践で得た経験をお話している。毎年、認知症を理解して貰う為にサポーター講座を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を開き意見交換、情報交換しサービスの向上に努めている。開催時は、必ず利用者1名は参加して頂いている。	運営推進会議は老人福祉委員や民生委員、地域包括支援センター職員等の参加を得て、2か月に1回開催しています。ホームの運営や活動報告を行い、参加者から意見やアドバイスをもらっています。家族の参加についてを議題にあげたり、参加者から地域の情報をもらうなど、運営に反映しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談事項があれば連絡して行く。	法人の統括が行政の担当者で連絡を取っています。職員と利用者が一緒に区の窓口に出向き、運営推進会議の議事録を届け、現状を知ってもらえるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待マニュアルを作成している。又、研修等によって周知徹底し身体拘束の意味を理解し実践している。	全職員が身体拘束についての研修を受け理解を深めています。日々支援する中で利用者が自由に動けるよう環境に配慮したり、行動を止めるような言葉かけをしないように注意を払っています。日中玄関の鍵はかけず、センサーを使用していますが、センサーを外せるよう取り組みたいと考えています。外に行きたい様子があれば一緒に出かけたり、外出の機会を増やすなど支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等の参加、カンファレンス等で周知徹底し十分理解でき防止出来ている。		

洛和グループホーム出町柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んでおり、必要があれば活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項を説明し理解を得た上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人による満足度調査や面会時等に要望がないか聞いている。調査結果も家族に報告し、常に意見を出しやすい雰囲気作りを心がけている。	遠方の家族も含め少なくとも2か月に1回の面会があり、面会時に利用者の様子を伝え、意見や要望を聞いています。また、年に1回法人のアンケートを実施し意見を聞く機会を作っています。筋力低下の予防のため外出の希望があり、毎日の散歩や外出支援を増やすことに取り組む等、意見をサービスに活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやカンファレンス、申し送りの際意見や提案を聞く機会を設けている。自由に発言出来る雰囲気作りを心がけている。必要であれば管理者から事業所長へ報告している。	月に一回のミーティングや毎日の申し送りの際に意見や提案をしています。職員の提案から実践に繋がったことは、申し送りノートに記入し職員に伝えていきます。ミーティングに欠席の職員には意見書を記入してもらうよう取り組んだり、行事やISO等の担当を作り、職員が意見を出しやすいよう工夫しています。また、年に2回の個人面談やアンケートを行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修の場を多く提供している。また、自己評価や個々の実績によって給与の水準をきめている。有休の取得や希望休等できる限り働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスや法人内で研修を全ての職員が受けられる様機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会のブロック会議等に参加し交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン作成時には必ず本人や家族の要望を確認している。本人については日常会話などから本人の希望を引き出せるよう実践している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用までに見学にきてもらったり相談員を交え話し合い(面接)をする機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員と共に管理者が面接を行いニーズの把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、利用者の隔てなく家庭的な雰囲気の中なかで暮らしていけるよう支援している。又、共に生きるという姿勢で関わる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族もスタッフの一員との意識にもとづいて随時ケアについて相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族の面会は定期的にある。家族の支援で時々外泊したり同窓会などに参加されることがある。又、馴染みの商店街などへ出掛けている。	以前近所に住んでいた友人がホームに立ち寄ってくれることがあり、職員は利用者の様子を伝えたり一緒に話をしながら楽しく過ごせるよう配慮しています。同窓会の案内が来た時には家族の協力を得て参加できるよう支援したり、個別に自宅や良く行っていた喫茶店へ出かけています。また、年賀状の投函の支援なども行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で話しができるよう間を取り持ったり話しやすい雰囲気作りを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去となった利用者や家族にまた相談などあれば連絡いただくよう話している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式などを活用し個々のニーズの把握に努めている。確認が困難な方には生活暦や表情からニーズを考えよう努めている。	入居前の面談時に本人や家族から意向や希望、生活歴等を聞いたり、以前利用していた事業所等から情報を得て思いの把握に繋がっています。入居後は、日々の関わりの中で知り得たことを申し送りや記録を通じて職員間で共有し、カンファレンスで本人本位に話し合い思いを把握しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報収集に努めセンター方式を活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方をよく観察し24時間シートに記入、定期的にあセスメントスタッフ全員が本人の現状を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族の希望を取り入れアセスメントを行いケアプランを作成している。実施後は定期的にモニタリング(状態が変化したときは随時)し再検討している。	入居時の情報からアセスメントを行い暫定介護計画を立てカンファレンスで話し合い、介護計画を作成しています。入居から大きな変化がなければ、3か月、6か月、1年の見直し期間を定め、評価や再アセスメントを行い、家族や本人の意向を確認しカンファレンスを開き見直しています。見直しに当たっては、主治医や訪問看護師、訪問マッサージ師等の意見も聞いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は言葉や行動をよく観察、記録し、1日の流れや体調の変化がわかるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望を定期的に、また随時確認し要望に応じられるよう努めている。		

洛和グループホーム出町柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域社会と交流し施設のあり方や現状を知ってもらい常にコミュニケーションをとるよう関わっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族からの希望を聞いたうえでかかりつけ医を決め、月に2度往診にきていただいている。医師とは24時間連絡体制があり対応できている。	入居時にかかりつけ医の継続も可能であることを説明しています。継続している利用者の受診は家族が対応し、家族を通して情報のやり取りをしています。協力医の往診は月に2回あり、24時間連絡できる体制が整えられています。また、週に1回の訪問看護を受け、健康管理や緊急時の相談等に対応してもらっています。希望により週に1回訪問歯科を受ける事もできます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護師が健康管理にきている。その都度相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員と連絡をとり情報交換している。入院時は施設での情報は必ず伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、かかりつけ医、相談員と相談し方針を決定し共有している。	入居時に看取り支援に関する指針を基に、ホームの方針を伝えています。利用者の状態が重度になった時には、医師と家族、職員で話し合い方針を共有し、連携を図りながら取り組んでいます。現在、家族の希望と協力の下、往診医を変更し終末期ケアに取り組んでおり、状態の変化に合わせて医師や家族との話し合いを重ね支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が普通救命講習を定期的を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の民生委員なども交えて防災訓練を定期的に行っており、利用者が安全に避難できる備えを心がける。	年に1回消防署の立会いの下避難訓練を実施し、2か月に1回ホーム独自で防災訓練を行っています。火災通報装置の使い方や避難誘導、消火器の使い方など、より具体的に訓練をしています。民生委員が参加して行われ、近隣の方には訓練の参加の依頼をしたり、徐々に協力が得られるよう取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の誇りやプライバシーを損ねることの無いように接し、言葉かけにも注意している。個人の意思を尊重しプライバシーを守る。	管理者は職員に、利用者とのコミュニケーションには、声の大きさや言葉遣いに注意を払うよう指導しています。特に排泄や入浴の支援の時には羞恥心に配慮したり、言葉遣いが馴れ馴れしくなり過ぎないように丁寧な言葉かけを意識しています。不適切な対応が見られた時には、その都度注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段のコミュニケーションを通じて本人の想いを知るように心がけ、利用者の意思を尊重する ように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常時本人の意思を確認した上で支援し、希望に添った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を利用したり、美容室に出かけてその人らしいおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食事が出来る様買い物へ一緒に行き献立を考えてもらい、準備から片付けまで手伝ってもらっている。	利用者にとっては食べるのが楽しみであると考え、毎日利用者と献立を考えたり、米研ぎや下ごしらえ、調理等のできる事に携わってもらいながら食事作りをしています。職員も同じ食卓に着き、同じものを食べ会話をしながら和やかな食事の時間を支援しています。時にはお弁当を作ったり、外食に出かけ食べたいものを選ぶなど、食事を楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事はバランスのとれた献立に努めている。1人1人の状態によって食事の形態を変えている。食事、水分摂取量ともにチェックシートに記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な歯科衛生士の来訪により指導をうけ、毎日各利用者に応じた口腔ケアの支援をしている。		

洛和グループホーム出町柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンの理解に務め、トイレ誘導等を時間の設定をせず、適宜誘導や交換をする様に支援している。	個々の利用者の生活リズムや排泄のパターンを把握したり、仕草や様子を観て排泄の失敗が減るよう支援しています。その方の状況に合わせて下着やパット、おむつの種類を検討し試用しながら自立に向けて支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医と相談し内服薬の調整や水分を多めに摂ってもらう、適度に運動してもらう等取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間浴等、お好きな時刻に入浴をして頂ける様に支援をしている。	入浴は午前中から就寝前までの間で希望を聞き、生活習慣にも合わせて毎日の入浴にも対応しています。状況によってシャワー浴に変更したり、入浴剤の使用、ゆず湯や菖蒲湯等の季節湯も楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の日中の活動や睡眠パターンを記録し安眠や休息に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会等をつうじて職員全体が各利用者の服薬において目的・副作用・用法・用量について理解しておりその上で利用者の状況に応じたコントロールを医師と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴、現在の能力や性格を勘案し負担とならず楽しんで行える役割を持ってもらったり、趣味や嗜好を把握し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば随時外出の支援をしてる。自分で希望できない方には体調、天候等考慮し随時誘うように配慮している。	毎日散歩に出かけたり、近隣の商店へ買い物に出かけています。誕生日に行きたい所に行ったり、花見や祇園祭などの外出支援をしています。遠出の外出には電車や介護タクシーを利用しながら、楽しんでもらっています。行事での外出には家族も誘っています。重度の方で外出が困難な場合は、リビングで窓から入る風や陽を感じてもらおう等の支援をしています。	



洛和グループホーム出町柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に同行し気に入られた物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は希望があればその都度支援し、読むことが困難な利用者には代読している。近年、携帯を所持しておられる場合もあり使い方も支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやベンチをいたるところに設置し思い思いに過ごせるよう工夫している。	民家を改修された建物で木の温かさもあり、利用者が落ち着ける空間には、様々な椅子やベンチ、ソファを置き、其々の居心地の良い居場所を作っています。また、タペストリーや利用者で作った貼り絵を飾り、季節を感じてもらえるように配慮しています。懐かしい音楽を流し、台所がオープンであり調理している音や匂いを感じながら、穏やかに過ごせる空間作りをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	使いなれた家具や食器をもちこんでもらい使用してもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っておられた家具や食器を使用し、不足している物品については家族様と相談しご本人と一緒に購入している。	全室和室で押入れがあり、以前からの生活と同じように布団を敷き休んでいる方もいます。使い慣れた家具を持って来てもらうよう説明し、タンスやテレビ、鏡台等を持ち込まれ家族や本人と相談しながら配置しています。家族の写真を飾ったり、本を読んだり手紙をかけるような環境作りに配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食器や掃除道具などわかりやすい場所においている。又、洗濯物は皆さんでたたんで頂ける様に支援している。		